

一、よい子に囲まれて

明るい社会づくりに貢献した人達に贈る。第十三回中日社会功労賞の表彰式が今年も中日新聞名古屋本社で盛大に行なわれました。

静岡県から選ばれた宮下さんもその一人、——静岡機関区の運転手でこの道ひとすじに生きて来ました。宮下さんの戦後の戦争孤児を見て始まったという、子供会づくり運動は全国的に有名になり、数々の話題を生みました。

人形芝居に童話に子供たちの夢を作る宮下さん。

「子供の世界にウソがない」と心の底から子供と親しむこの人は青少年環境浄化に大きな業績を示しています。

一、蚕と若者

——瑞玉

小林徳秋二十二才無名の青年である。彼は農業に未来をたくす数少ない農村青年の一人、いま養蚕に熱心だ。埼玉県熊谷から西へ十二キロ川本村本昌は昔からの養蚕地帯、小林君の家もそこにある。

その本昌の稚蚕共同飼育所は設備、規模とも県下一を誇っている。

ここでは小林君をはじめ若者達で研究会をつくり、彼等が村の近代養蚕のリーダーとなつて久しい。

その研究成果をそのまま共同養蚕所のためにためてみる。

八日間、ここで育てられた蚕は、各家庭に引取られ愛情をもって育てられて行く。

経営面においても、技術面においても常に近代的なものを取り入れようとする若者がいる限り、農業にはまだまだ未来がある。